

# 元の理～この世の摂理～

2020.12.9 ver.

-作成途中- ©小林真

人間が生きる意味。それは人を助け又助けられ、遊び心の中に喜び勇む道、「陽気遊山」にある。自分の身体、又、この世の全ては、陽気遊山の為に借りている物で、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はすぐに変わり始める。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみてほしい。

どんな道も、案じ心は持たぬよう。 \*「理」=事実、要因  
どんな時も、この身、全てを借りてることを忘れずに。  
どんな小さな事象にも、自分にとって何かの意味がある。

十柱の働きには、「陰での働き」主体(陽3:陰7)のものと「陽での働き」主体(陽7:陰3)のものが存在する。

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に足を運びつぱり支える。局面を見極める洞察力と仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足の役割。頭低く、影で下の方から支える土台の働き。  
ここぞという所で俊敏に硬化する働き。

物事が治まる理。

過剰（くもよみ 不足）：  
不要なや引き出さなくていいものまで引き出してしまう状態。

お節介や勇み足、悪い方への誘引

引き出し3割の加減  
不足（くもよみ過剰）：  
物事の表面部分が目について、隠れた長所や本質に気付けず引き出せない状態。他人に対して見下す心（優越感）、自分に対して過度にへりくだる心（劣等感）

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。  
動植物の成長は、日光によって引き出される。

聞き上手が話し上手に。勇み心を八方へ。

過剰（たいしょく天 不足）：  
受ける側にとって、風がしつこい状態。暴風・台風状態。两者の声や思いが通らない。受ける側は身動きが取れず、聞き分け、嗅ぎ分けできない。肥（声）をやり過ぎ、乾いて枯れた状態。

不足（たいしょく天 過剰）：  
受ける側にとって、風通しが悪い状態。言葉足らずで心がじめじめと腐る状態。湿気、陰気臭い、しけた顔、ため息、息苦しい、虫がわく、カビ。また過度に閉め切る為に鳴る、金切声（耳障り）の状態。陰口、愚痴、愛想尽かし、切り口上、捨て言葉、誹謗中傷

挨拶は風の働き。声は肥。相手の状態に合わせて自ら吹かそう。柔軟にかける言葉は変えよう。

物事の起点となり、ほこりや汚れを洗い流す澄んだ水の心。冷静で、広大な海の心。目の前ではなく、遠くの大きな楽しみを見るから落ち着く。のんびり。物事の根を綺麗にする心。見えない陰で尽くす楽しみ。「目は心の窓」眼は心根の現れ。

くにとこたち不足時： 場所を定める。左親指  
熱中症、火事、火傷、猛暑、熱帯夜、火山噴火、地震、砂漠化、高血圧、不安症、ストレス過多、高熱、過緊張、不眠症、身震い、眼の身上 etc.  
月 天 父 陰での働き  
左の役割 ①くにとこたち  
朝起き お陰様の理。  
死ぬというのは、着れなくなった衣服を脱ぎ捨てるのと同じこと。

物事の整理が付かない状態は、泥海のように混沌として面白くない。この世の元始よりも同様に混沌としていた。この图表を見て、この世が形成された一連の流れを思案し、どういう理で現れたのか、そして「自分は」という理を尽くすのか、自ら思案し悟ることである。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

自ら勇んで通る道はやがて逞しい往還道へと続く。

天とは、普段見えない陰の働き。  
心もまた目に見えない陰の働き。  
天の理とは、見えない陰の働きの理のことであり、心の理のことである。

月 男 陰での働き

陰で周りを引き立て支え、大事な所で俊敏につっぱる心  
陽3: 陰7

⑥月よみ

体内：骨、男一の道具

世界：つっぱり支える働き

立てる働き、岩石、柱、月、月の引力

北 西

六日 六だいおきまる

冬至

夜

陰での働き

時季を見定め、陰の働きや隠れた長所を根気よく引き出す実りの心

陽3: 陰7

⑨をふとのべ

体内：出産時に子を引き出す働き

身長、爪、毛髪の成長、思い出す、閃き

世界：引き出し一切、教育、引力、動植物の成長

日の入

西 立冬

九日 苦がなくなる

秋分

南西

八日 八方ひろがる

日 地 母

流れを生み、向きを変える働き。

言って勇ませ、聞いて楽しむ心

陽での働き

陽7: 陰3

⑧かしこね

体内：息、呼吸、鼻で吸い(加温、加湿)

清浄 口で吐く(冷暖房、加湿除湿)

声、言葉、耳、聴覚

世界：風、音、空気、大気、潮の満ち引き

優しく心地のいい風、言葉が生まれる。

言葉は命

運命を変える

物事が当たり前に思えてしまう状態

をもたり不足時：

冷え性、悪寒、低血圧、貧血、極寒、低体温、洪水、津波etc.

月 天 父 陰での働き  
左親指  
無意識領域。

先の楽しみを見定め、陰で落ち着いて物事の根っこを澄み潤わせる心。

左の役割 ①くにとこたち  
朝起き お陰様の理。

死ぬというのは、着れなくなった衣服を脱ぎ捨てるのと同じこと。

自分をまとう欲(泥)を捨て  
いんねんを切り替える。

天

仕切る働き。瞼を閉じて冷静に思い切り、切を付けて進み出す心  
陽3: 陰7

⑩たいしょく天

体内：出産時に親子の胎縁（臍の緒）を切り、出直し時に息を引き取る働き。散髪、爪切り

世界：切ること一切、細胞分裂、食物の収穫

過剰（かしこね 不足）：  
物事が処理しきれず、その状況を断ち切る状態。瞼が勝手に下がってくる状態。

不足（かしこね 過剰）：  
物事への執着が強くなり、先案じや保身の考えが先行して、先へ進めない状態。不安や心配などで、瞼を閉じ切れない状態。割り切れず思い切れず、踏み切れない、けじめがない。切れ味が悪い、保守的

過剰（をふとのべ 不足）：  
物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼せず、味わわず、消化せず、吸収できず。物忘れの傾向。腹七分目

不足（をふとのべ 過剰）：  
物事を柔軟に受け入れず、流れに反して物事に執着し手放さない状態。偏食、拒食or便秘状態。食わず嫌い状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

→過剰＆不足：物事が身に付かず、朝を迎えない。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎られない、無理な辛抱や我慢

どこまでも、ひくい、やさしい、すなおな心、眞実の心で。

人を助ける処に、自分が助かる。相手とともに、皆で助かっていく道。

ヒント！

【二つ一つの理とその均衡】  
対になる働きは、まるでシソーラスのように連動して作用している。

①くにとこたち：②をもたり  
③いざなぎ：④いざなみ  
⑤くにさづち：⑥月よみ  
⑦くもよみ：⑨をふとのべ  
⑧かしこね：⑩たいしょく天  
隣り合う働きも夫々似ており連動している。なので、この図は3Dで立体視することも可能である。

HP:https://karakosha.net/youkiyusan